

中日ニュース

シネスコ版

6720R
68) = 2-110 323
新巻 2-110 111
本編に同じ

半口 = 2-110 164
ハドルに競う

No. 488

38. 5. 24

一、第一回中国モトクロス大会 88頁 (トッポへ追加)
新巻

一、栄光めざして

— 豆騎手物語

朝靄につつまれたここ東京世田谷の馬事公苑。ここには夢をダービーにかけた騎手の卵達が厩舎と棟を一にする宿舎で二カ年間の訓練に汗を流しています。
豆ジョッキーの馬との一日の生活は午前六時の起床とともに開始される。
朝の早い馬場は14名の豆ジョッキーが勢揃い。足踏みなしでのいわゆる飛び降り飛び乗りという難しい技術の体得に一生懸命。

教官の愛のムチにも堪えて一人前のジョッキーへの道に近づいていくのです。

今日は障碍飛越の練習。三冠レースと並んでジョッキーを志す男子、一度は挑んでみる「中山大障碍レース」への出発点。だから何度も馬に振りまわされながらもグッと手綱をひきしめるのです。

こうして、彼らの夢は鞍のあげさげに比例して日一日と叶えられそうです。厩舎、そこには谷ジョッキーの馬一筋にかける若々しい情熱がみなぎっているのです。

アイモ風土記

一、神々の行方

— 出雲大社

今年も出雲大社の春の例祭が始まりました。

風波荒れ狂う日本海に面した出雲地方は春と共に農業を中心にした生活をはじめます。

そして一年の豊作に祈りをこめて出雲大社の春の大祭が千数年来、行なわれてきたのです。

この祭りには皇室からも勅使を派遣して御供物を奉納します。しかし同じ天皇御一族のまつられた伊勢神宮と決定的に違っていることは、出雲大社がこの地方の人々の強い信仰の対象であり、人々の生活のすみずみにまで強く結びついていることでしょう。三日間の祭りの間中踊りつづけられる出雲名物の神楽にもそれを伺うことができます。この地方のどこへいってもみられる神楽には古事記や日本書記で活躍する神々の物語がつきつきと舞い踊られるのです。すなわちこの地の人々にとっては、そのような神々も出雲の地方を開拓した

強くたくましい先祖の姿そのものなのです。
激しい日本海の風土。そしてそれに対抗するように巨大な神社の建造物。

しかしこの地に記された文化と、そして、祭られている神々も農業を中心にしたこの地方が解体再編成されてゆくなかで大きく変わろうとしています。

6720R

38頁

283頁